

水需要管理 WG とりまとめ（たたき台）

1 水需要の問題点

過大な水需要予測：これまでの水需要予測はつねに過大であった。

際限なき水資源開発；過大な水需要予測をうけて、際限なく水資源の開発に努めてきた。

聖域扱いされた慣行水利権：農業用水については実態も把握されず、再検討されなかった。

放置された水の浪費：「水はタダ」のごとく、水を浪費してきた。

配慮されなかった環境用水：「維持用水」から「正常流量」へと、環境についての配慮は進展したものの、十分とはいえない。

2 発想の転換

「不合理な水需要予測」から「合理的（順応的）水需要予測」へ

水資源の「開発対応」から「需要管理」へ

聖域なき「水利権の見直し」

水の「浪費」から「有効利用(節水・反復利用など)」へ

「環境用水」の導入

現在、水資源の開発は限界に近いとの認識のもとに、地方自治体および水道事業者の水需要予測を積み上げて、それに対応できるように水資源の開発をしてきたこれまでの方式を、河川からの取水限界量を出発点として、水を有効に利用する社会の実現を目指すとともに、河川管理者が環境用水を含めたあらゆる水需要の調整をおこなう。

水需要管理の内容および河川からの取水限界量については、WG での検討が必要である。

3 水需要管理の実現に向けて

河川管理者は、上水・工水・農業用水・環境用水の関係者等が参加した「水需要管理協議会」を開き、水需要の調整をはかる。この協議会における協議内容は公開とする。公開の手法については別途協議する。